

ある調」でも構いません。

英語として難解な表現はありませんが、それだけに、子供たちの会話や動作を生き生きとした日本語に移し変える技術が求められます。熟語など、難しい言い回しは使えませんので、主人公のマーティンになって日記でも書く気持ちで取り組んでみてはいかがでしょうか。

【訳出のポイント】

- 1) 英文には「he」や「she」といった代名詞が多用されていますが、この翻訳では「彼」「彼女」と訳すのは禁物です。できるだけ省略し、必要な場合は「マーティン」「ライラ」「ライラのママ」といった具体的な表記にしましょう。
- 2) 英文 6 行目「It was her hair!」は、前のパラグラフ（ライラは普段の姿とどこか違っていた）を受けてのマーティンの心の叫びですので、「It」をただ「それは」とせず、状況がよくわかるように具体的に訳すといいでしょう。
- 3) 英文 7～8 行目、「Her messy orange curls and constant hand-raising blocked his view of the blackboard.」は無生物主語の構文です。そのまま訳さず、主語をライラの動作として、「オレンジ色をしたくしゃくしゃの髪を、ライラがいつも手でかき上げているので」のようにかみ砕いて訳すと、自然な日本語になります。
- 4) 英文 14 行目の「dryly」、15 行目の「smile faded」などは、動作の主体が子供だということを意識し、子供たちの心情が伝わってくる自然な表現の訳語を工夫する必要があります。
- 5) 英文 15～17 行目のマーティンのセリフに「yesterday」が繰り返し（しかも、斜字体で強調して）出てきます。訳文では、単なる繰り返しとはせず、子供らしいセリフの中に埋め込む工夫が必要です。
- 6) 英文 19～20 行目のライラの動作、「she reached for her left foot and pulled it up behind her.」を、読者にビジュアル・イメージが湧くように訳しましょう。次パラグラフでマーティンがピンクの鳥（フラミンゴ）を連想しているのがヒントになりますし、自分で実際にその動作を試みるのも有効です。

【翻訳例】

どこか変だと思ったのは、ライラの髪の毛のせいでした。

マーティンは、ライラの髪のことなら、いやというほど知っています。教室で、マーティンはライラの後ろの席に座っているのですが、オレンジ色をしたくしゃくしゃの髪を、ライラがいつも手でかき上げているので、黒板が見えないのです。でも今日のライラは、きちんと髪をとかして、トンボの形のヘアピンでとめています。

「ハッピー・バースデー！」

そう言って、ライラは表のほうを向いて、車で送ってきてくれたママに手を振りました。ライラのママはクラクションを鳴らすと、帰っていきます。

「ぼくの誕生パーティーに来たのかい」マーティンは、あっけにとられて言いました。

「あら、早すぎた？」

「ちがうだよ、ライラ」マーティンはほそつと言いました。「遅すぎだよ。パーティーは昨日だったんだ」

「え？ でも、招待状には今日って——たしか」ライラ笑顔がすうっと消えていきます。

「昨日だよ」マーティンはきっぱりと言いました。「昨日だったんだ。招待状にも、そう書いてある。クラスの全員を呼んだけど、みんな昨日、パーティーに来たよ」

ライラはポケットに手を入れて、招待状を探しましたが、見つかりません。さっと後ろを振り返りましたが、ママの車は行ってしまった後でした。ライラはゆっくりとこちらを向くと、マーティンの顔を見ます。それから、手を伸ばして左の足をつかむと、後ろに持ち上げて片足で立ちました。